

分類	項目	ご意見・ご質問・ご要望の要旨	ご意見・ご要望・ご質問に対する県・松江市の現時点での考え方
意見	全般	治水対策は、河道の掘削や堤防のかさ上げだけでなく、貯留・浸透施設の整備、森林保全、氾濫原管理、洪水の予測や情報の提供等含めて、幅広い方策を検討することが考えられる。	治水計画案を検討するにあたっては、第3回検討委員会にて洪水時における下流の河川に対しての効果や経済性について評価、検討し、規模の大きい洪水に対して抑制効果の高い「ため池」「洪水調整池」「遊水地」「河川調整池」の4施設を治水対策としています。貯留・浸透施設の整備、森林保全、氾濫原管理、洪水の予測や情報の提供などは、浸水が頻発に起きる地区への短期的、集中的な対応、計画規模を超える局地的な豪雨に対するソフト対策として、今後、検討していきます。
		3案の治水計画案を比較するために、これまでの評価軸に加え、時間的・財政的な制約等を加味した新たな評価軸を検討すべき。	今回提案した治水計画案につきましては、安全性、地域社会への影響、環境への影響、コストの評価項目で評価しておりますが、今後の財政状況を考慮した時間的な評価軸（実現性）を加えて評価し、治水計画案を検討します。
		今回の治水計画案は、80年に1度の洪水に対してのものであるが、最近の降雨量はかなり多く、24時間雨量が500mmに達するところもあり、この計画では不安。	計画規模につきましては、松江堀川の流域面積、想定氾濫面積、資産額、人口や過去の洪水規模から決めており、おおよそ80年に1回程度発生する洪水の規模としております。今後、計画規模以上の洪水に対しては、被害軽減対策として情報伝達や防災活動等のソフト対策を進めることで対応していきます。
		治水計画を考えるにあたっては、明治26年の大水害以降を加えて検討すべき。昔の雄大なお堀の姿を取り戻すことを長期方針に掲げて、それに向けた施策を講じてはどうか。	対象降雨につきましては、松江観測所における時間雨量記録より昭和31年からの洪水被害の大きな降雨を対象としています。昭和30年以前は時間雨量記録がないため、正確な水利・水文解析ができないことから対象としておりません。また、ご意見の昔の姿の回復につきましては、すでに市街化が進んでいる中で難しいと考えています。
	総合治水対策	松江堀川上流域の住宅等には、各戸で雨水貯留施設を設置し、またそれを促す施策の実施を望む。	雨水浸透（貯留）施設につきましては、流域対策の選定を行った際、松江堀川へ流れ込む水の量を抑える効果が低いため、今回の治水計画案の対象とはしておりません。今後、浸水が頻発に起きる地区への短期的、集中的な対応、計画規模を超える局地的な豪雨に対するソフト対策として検討していきます。
		3案はよいと思うが、排水路を増やすことを考えてはどうか。	排水路（雨水下水）につきましても、今後検討していきます。
		上流部の開発にストップをかけ、できれば時間をかけて自然に治水能力を高める土地利用計画の策定を模索する必要があるのではないか。	松江市は都市計画において市街化区域と市街化調整区域に区分しており、堀川上流部の市街化調整区域では、原則開発は制限されています。確かに過去の住宅開発等で市街化が進んだ区域も見られますが、現在では土地利用方針も策定し、法の運用もより開発抑制にあり、また農地法も改正され原則転用ができない集約的農地の規模も縮小されています。
		土地利用や宅地開発などにおいて、水害の危険性を考慮した計画づくりと許認可をする必要がある。	開発抑制については適切な法の運用ができるように都市計画、農政部局と連携を取りたいと考えています。なお、市街化区域では計画的に市街化を図る区域であり、現状の用途地域指定に加えての土地利用規制は難しいと考えています。

分類	項目	意見・質問・要望の要旨	意見・要望・質問に対する県・松江市の考え方
意見	総合治水 対策	不動産の物件紹介においても、過去の水害時の情報等について開示を義務付け、アドバイスや長期的には水害危険区域外へ誘導することも必要。	個人情報保護の観点や個人の生活に制限を加えることにもなりかねず、現段階においては難しいと考えます。 松江市内のハザードマップを公表しておりますが、住民の方々への周知を徹底するため、今後も情報発信していきます。
		水害危険区域の居住者には、危険度に応じて「災害復旧基金」等の積立を義務付け、災害後の経済的負担を軽減する措置をとることが必要。	
	流域対策	普段は親水公園や広場、駐車場に使っている湖岸周辺の公用地や、農用地等民地を遊水池として利用するのが、経済性、景観だけでなく、自然環境にとってもよいことだと思う。	遊水池につきましては、上流から松江堀川に流れ込む水の量を少なくすることにより、河道への負担を抑えることを目的に、松江堀川上流にある水田等の平坦地を対象として検討しております。
		中途半端な遊水池は溜まった水が凶器にもなりえるため、あまりよい方策ではない。	洪水時に溜まった水を流す方法につきましては、放流することで下流が浸水する恐れがないよう、実施する段階で管理操作方法等検討していきます。
	放水路	出水時に末次ポンプ場から排出される水の影響と思われるシジミのへい死が発生しており問題となっている。また、治水の面からも、より下流への排出が必要。	放水路を設置する場合は、排出先が宍道湖であるため漁業関係者と充分調整を行い、進めてまいります。
		効果も期待されるかもしれないが、治水安全上リスクが大きいように思われる。	放水路につきましては、大橋川の水位が高くなった場合は水門を閉めなければいけません、その場合の内水対策についても検討を行っており治水安全度は確保しております。
		1.55mの幅では不足。もっと広い幅が必要。	放水路の幅につきましては、今回提案していただいた案も含めて検討します。
		放水路の排出口の構造物は、景観に配慮したデザイン、方法を検討すべき。	放水路を設置する場合は、景観に配慮したデザイン、方法で検討します。また、現在の末次ポンプ場及び水門はそのまま使用します。
	北田川	朝酌川合流時に本流の勢いに負けて北田川の水が滞留する可能性もあるため、機械的に水を下流に排除することを考えるべき。	内水排除ポンプの位置につきましては、第4回検討委員会で内水対策の検討を行い、北田川は塩水を朝酌川に流すこと及び朝酌川の水位が上昇することに対して地元の理解が得られにくいことから、大橋川改修事業により、早期事業可能となる上追子川としました。
	河川改修	小規模な遊水池を数箇所設けるよりかは、河川の幅を1.0m広げた方が効率がよいと思う。	松江市街地においては、川の拡幅は相当なコストと時間を要します。そのため、今回の治水計画案は、河川改修だけでなく、流域対策や放水路を組み合わせた総合的な治水対策として検討しております。
		比津川、中川の河川改修が必要。	中川につきましては、現在河川改修を行っているところです。また、比津川につきましても、今後検討していきます。
	内水対策	すでに大橋川改修計画の中で内水排出ポンプの設置が計画されているため、自己流対策用として増設、再配置するような、大橋川とセットで内水対策を考えるという視点を持ってほしい。	大橋川の水位が低い場合に、松江市街地に大雨が降った場合は、松江堀川から大橋川へ、直接大量の水を流すことができます。しかし、その状態で水門を閉ると大量の水をポンプで排出するための大規模なポンプを設置しなければいけません、難しいと考えています。このため、排水ポンプについては内水対策用として増設することを検討しています。

分類	項目	意見・質問・要望の要旨	意見・要望・質問に対する県・松江市の考え方
意見	新たな提案	<p>現在、松江堀川に塩分を含んだ宍道湖の水が導水されていることから、朝酌川下流に農地があるため、北田川が常時閉まっております。宍道湖から松江堀川への導水を中止し、淡水を導水して京橋川水門から朝酌川の水を流し、北田川水門で排出する流れにしたらどうか。</p>	<p>現在、宍道湖の湖水を松江堀川の浄化用水として通年導水を行い、水質を保ち、常時は、朝酌川に塩分濃度の高い水が流入しないよう、北田川水門を閉め、向島川より排出しています。しかし、一定規模の洪水が発生し、朝酌川より北田川の水位が高くなると、松江堀川の水を朝酌川へ排出するため、北田川水門は開門することとしています。このため、水門は洪水時に機能していますので、治水上のネックにはなっていないと考えています。</p>
		<p>黒田方面の松江堀川から佐陀川に強制排水路をつくり、佐陀川の川幅を拡げる案はどうか。</p>	<p>今回の治水計画案では、松江堀川から大橋川、朝酌川に流下する計画として検討しました。他流域（佐陀川）への分流は、分流先との調整等が長期にわたると予想されるため、検討から除外しました。</p>
		<p>堀川の水は、朝酌川に排出すべきだと考える。実現のためには、汽水である堀川の水を放流することになるため、朝酌川下流の農地への新たな農業用水を確保する必要がある。川の農地側に小さな水路を作り、上流側に移動した水門から淡水を引き、さらにこの水路を利用して、水門を上流に移した際の水位の上昇に対応できるようにしてはどうか。</p>	<p>朝酌川に設置してある手貝水門を上流に移設すると、既存の利水容量の確保が困難であるため、現時点では難しいと考えます。</p>
	環境	<p>グリーンインフラ（屋上緑化・屋根緑化、レインガーデン等）を用いて、生態系を残しつつ人間と自然が上手く付き合える社会・文化の基盤が作れたらと考える。</p>	<p>環境面につきましては、今回いただいた意見のほか第3回検討委員会にて「城下町になじまないような生態系にならないように、在来種が住めるような工夫を啓発とともにしていただきたい。」との意見もありましたので、充分配慮するよう努めていきます。</p>
		<p>川幅を拡げれば、多くの生息している生き物に悪影響を与え、今の生態系を壊してしまう。</p>	<p>河川改修を行うことにより生物等に対してどの様な影響があるのか、今後検討した上で整備を進めていきます。</p>
		<p>松江堀川は生物にとっても貴重な場所。河川改修などにより生物がすみにくい川にしないよう工夫してほしい。</p>	

分類	項目	意見・質問・要望の要旨	意見・要望・質問に対する県・松江市の考え方
要望	全般	地域住民や観光客等の意見を聞いて進めてほしい。	今回意見募集だけでなく地域住民の方々からもご意見をいただきましたので、それを踏まえ治水計画を進めていきます。
	総合治水対策	総合治水対策は誠に結構な発想であるため、積極的に情報発信してほしい。しかし、県内には多くの要治水対策河川が存在することから、この方法であればどこでも対応できるといった誤解のないように。	今後もホームページや広報誌、地元説明会等で情報発信していきます。また、河川改修を検討するにあたり、まず川幅を検討することは大前提であります。しかし、松江市街地においては、川の拡幅は相当なコストと時間を要します。そのため、松江堀川の治水計画案は、河川改修だけでなく、流域対策や放水路を組み合わせた総合的な治水対策として検討しました。
	流域対策	ため池の改良は必要であるが、最近農地が宅地に変わりため池が放置されているので、管理が必要。	ため池を改良した後は、水利組合だけでなく所有者である松江市も管理していきます。
		遊水池としての農地利用も必要と思うが、普段からの補償を考えるべきと思う。	遊水池につきましては、水田を利用するための補償をしたうえで設定することを考えていきます。
	河川改修	筋違橋は「松江城下ができた時の象徴の橋」とは言えない。強く美しく新たな景観を作り出す、より良い筋違橋を作ってほしい。	筋違橋の架替につきましては、第3回検討委員会にて東京橋、交融橋同様上下流に比べ橋周辺の川幅が狭かったため検討を行ってまいりました。筋違橋を取りやめたのは、委員会にて指摘を受けただけでなく、筋違橋の架替を行わなくても松江堀川の水位が標高(T.P.)+1.30mを超えない治水計画案を示すことができたためです。
		筋違橋は昔から松江の風景写真がポイントであり観光保全の面から残しておいた方がよいと思う。	
		松江堀川に接している小河川の土砂取除き、護岸改良も計画的に実施して治水効果を計ってほしい。	堆積土砂の撤去は、現在でも流水を阻害するような箇所は、予算の範囲内ではありますが実施していますので、今後も対応したいと考えています。また、護岸改良については、中川につきましては、現在河川改修を行っているところです。また、比津川につきましても、今後検討していきます。他の松江市が管理している河川につきましては、過去に公共下水道事業などにより整備しており、現在新たな整備計画は持っていませんが、道路内の雨水管路整備については、今回の治水計画と連動して実施したいと考えています。
	北田川	朝酌川の改修を先にやるべき。	朝酌川につきましては、大橋川の改修との調整が必要となりますので、国と連携しながら進めてまいります。
		北田川水門付近への排水ポンプ場を早急に設置してほしい。	内水排除ポンプの位置につきましては、第4回で内水対策の検討を行い、北田川は塩水を朝酌川に流すこと及び朝酌川の水位が上昇することに対して地元の理解が得られにくいことから、大橋川改修事業により、早期事業可能となる上追子川としました。
		兩岸を親水護岸にしたらどうか。	親水護岸等具体的な断面、構造につきましては、今後実施設計のときに検討しますが、親水護岸も考慮に入れて検討します。
朝酌川	大橋川、朝酌川の改修を実施したあとに水を流してもらわないと朝酌地区は水没するかもしれない。	松江堀川だけでなく、大橋川、朝酌川の改修も進めてまいります。しかし、朝酌川につきましては、大橋川の改修との調整が必要となりますので、国と連携しながら進めてまいります。	
内水対策	内水排除ポンプを早く着手してほしい。	内水対策における内水排除ポンプについては、第4回の委員会にて方向性を示しましたので、今後河川整備計画を策定し、大橋川改修事業にあわせ整備する予定です。	

分類	項目	意見・質問・要望の要旨	意見・要望・質問に対する県・松江市の考え方
要望	環境	松江堀川浄化の為京橋川で水質改良の実験をされた結果を生かしてほしい。	松江堀川の河川改修を行うにあたりましては、以前行われた水質改良の実験も参考にし治水だけでなく環境面も含めた検討を行います。
		渇水時に松江堀川の水が澱んでしまうことが考えられ、水質低下につながりかねないため、強制循環させるようなことも考えてほしい。	現在、松江堀川については、宍道湖の湖水を松江堀川の浄化用水として、通年導水を行い安定した水質を保っています。渇水時においても、現在同様宍道湖の湖水を利用することによって水質を保つことを考えていきます。

分類	項目	意見・質問・要望の要旨	意見・要望・質問に対する県・松江市の考え方
質問	流域対策	遊水地案で、コンクリートの壁とはどのようなものか。また、農地利用者の出入りに支障をきたさないよう、どのような方策をとるのか。	コンクリートの壁とは、遊水池の外側の壁（擁壁）をコンクリートで施工しますので、「コンクリートの壁」という表現にしました。また、農作業の出入りに支障をきたさないように斜路などの出入り口を確保します。
		北高グラウンドのような形で、今後利用できるような場所は他にはないのか。	北高グラウンドのほかに、他の学校、公園、駐車場についても検討を行っておりますが、流域対策の選定を行った際、松江堀川へ流れ込む水の量を抑える効果が低いため、今回の治水計画案の対象としておりません。今後、浸水が頻発に起きる地区への短期的、集中的な対応、計画規模を超える局地的な豪雨に対するソフト対策として検討していきます。
	北田川	大橋川の水位が上がるまでの一時期しか機能しないのでは。	今回の治水計画案は、短期間で松江堀川の水位が上がった場合を想定し検討した結果、効果があったため計画案として示しています。しかし、大橋川は、斐伊川の上流で降った雨が半日から1日かけて流れてくることにより水位が上がってきますので、大橋川の水位が上がった時には内水対策が必要となってきます。
		松江堀川に現在塩水を導水しており、かんがい期に朝酌川に流せないため、効果がないのでは。	北田川水門につきましては、平常時は堀川浄化のため塩水を導水しているため、水門を閉めていますが、洪水時に朝酌川の水位より北田川の水位が上昇した場合には、水門を開け松江堀川の水を流します。そのため効果があると考えています。
	朝酌川	朝酌川の今後の治水計画を示してほしい。	今回松江堀川の治水計画案を示しましたが、この計画案は朝酌川は改修することを前提としております。朝酌川の河川改修は、斐伊川水系河川整備基本方針（河床高－3.5m）に基づく大橋川改修に併せて河床掘削、築堤等を行うこととなります。
	放水路	宍道湖の水位が上がるまでの一時期しか機能しないのでは。	今回の治水計画案は、短期間で松江堀川の水位が上がった場合を想定し検討した結果、効果があったため計画案として示しています。しかし、大橋川は、斐伊川の上流で降った雨が半日から1日かけて流れてくることにより水位が上がってきますので、大橋川の水位が上がった時には内水対策が必要となってきます。
現在の水門、ポンプとの関係はどうなるのか。		現在の末次ポンプ場及び水門はそのまま使用します。	
放水路に排水ポンプは設置しないのか。		内水排除ポンプの位置につきましては、前述にも書いたとおり、大橋川改修事業により、早期事業可能となる上追子川としました。	